

昨年度「山の手空襲を語り継ぐ集い」の様子

ともしび
共生委員会ニュース

2019 年度　1 号

2019 年 5 月 17 日版

共生委員会ニュース「ともしび」　　スクールモットー「地の塩、世の光」

共生・校外学習委員会は平和や共生に関わる活動、修学旅行などを担当する教員の委員会です。原爆投下の地、長崎を訪れる 2 年生の修学旅行だけでなく、高等部の 3 年間の生活を通じ、同じ社会に共に暮らす様々な人々との関わりに目を向け、平和や共生の問題を考えていきましょう。この共生委員会ニュースでは、様々な経験をする機会を得た生徒や教員の声も他の多くの皆さんへ届けたいと思っています。その経験を共有し、一緒に考えるきっかけとして下さい。

高等部の平和共生教育

修学旅行、各教科の授業など 3 年間を通して平和と共生について学んでいきます。平和共生 LogBook に一人ひとり違った足跡を残しながら、考えていきましょう。

3 年間の流れを紹介

1 年生

聖書　杉原千畝の生き方を通して

国語総合　遠藤周作とアウシュビッツ

英語　Playing the Enemy（人種差別政策アパルトヘイト撤廃後の南ア ラグビーワールドカップ）

生物　放射線被曝の影響

2 年生

聖書　内村鑑三の生き方を通して

現代文 B　共生に関するテーマ(内容未定)

日本史 A(現代史)　太平洋戦争、アウシュビッツ収容所、原爆の歴史

現代社会　日本国憲法第 9 条

英語　Life in a Jar

物理　原子力と核兵器

修学旅行　平和講話、長崎原爆資料館、キリシタン弾圧の歴史

3 年生

聖書　M･L･ King Jr 牧師の生き方を通して

現代文　共生に関するテーマ（内容未定）

英語　共生に関するテーマ（内容未定）

平和共生に関する個人論文作成

その他

グローバルウィーク、学問入門講座「共生と平和」、岩手県宮古市の高校との交流、フィリピン訪問プログラムなど

平和・共生に関する活動に興味がある人は、藤本、武藤、吉成、キャロルまで声をかけてください。

平和共生論文執筆の流れ

68 期（現 3 年生）の平和共生論文は、6,000 字以上という字数設定のもと下記のスケジュールで執筆されました。

また、今後は論集作成や代表論文生徒による成果発表会が行われる予定です。

学年により変更することがありますが、1・2 年生はぜひ参考にして下さい。

3 年生の皆さん、執筆お疲れさまでした。

68期平和共生論文　執筆スケジュール		
2年次		
時期	作業	内容
1学期終業式	論文執筆総合オリエンテーション	平和共生論文とはなにか、論文執筆とはどのような作業かを説明
夏休み明け	テーママッピング＆題目提出	夏休みの間に考えたテーマを担任に提出
2学期中間明け～期末前	HR別図書館オリエンテーション	資料や検索ツールについて、司書教諭の指導を受ける
冬休み中	論文中間報告書作成	所定の用紙を用い、タイトル、章立て、各章の概要を記入
1月LHR	中間報告書読み合わせ	クラス内で中間報告書の読み合いを行う
2月中旬	論文執筆事前相談会	代表生徒有志による体験談、個別相談
冬休み明け～春休み中	**論文執筆**	各自が調査、執筆を行う
3年次		
始業式	**論文提出**	HR担任に紙ベースの論文を提出（後日データでも提出）
5月中	担任による代表論文選出、審議	各クラス1～2名の代表者を各担任が選ぶ
6月～夏休み中	代表論文加筆訂正	指導担当者のアドバイスに従い、代表論文の完成度を高める
11月ごろ	論文集制作	代表論文全文及び他の人の執筆者氏名、論文題目掲載
12月上旬	SGH成果報告会	代表論文執筆者によるプレゼン（4名程度）

フィリピン訪問プログラム報告

HR307　T.T.

あなたは人生を心の底から幸せだと言えるだろうか。

私がフィリピンで出会った子供たちは人生を楽しんでいると断言してくれた。おそらく日本で生活している多くの人はそのように言うことは難しいだろう。なぜフィリピンの子供たちはそう断言できるのか。その答えは私達が忘れてしまった心の豊かさにある。

私が出会った青年は 12 年生(日本でいう高校 3 年生)で、勉強が嫌いで怠け者の私とは対照的に一日に 10 時間以上も勉強をしている。そんな彼が言っていたのが「人生楽しい！！」ということだった。しかし彼を含めた子供たちは日本にいる私達が想像できないほどの劣悪な環境に置かれている。家には下水道が通っておらず、井戸から汲んだ水はそのまま飲むことも出来ない。また一部のスラム街では家庭内暴力や麻薬が横行し、両親が安定した職業に就いていないため金銭的に貧困である。しかしここで重要なのは金銭的貧困と精神的貧困は異なるということだ。確かに環境は劣悪であるが、彼らは小さなことに幸せを見いだせる心を持っている。

例えば電気が通っていることは当たり前ではなく、灯りがつかない経験をしている。だからこそついた時、幸せを感じることが出来るのである。このようにどんなに生活が貧しくてもつらさや孤独を知っているからこそ、今を無駄にすることなく未来のために前を向いて、小さなことに幸せを感じながら生活することが出来るのだ。この心の豊かさがあるからこそ家族のことも自分のことの様に捉えている。

私が出会った大学生の青年は将来の夢は家族を助けることだと答えた。また彼が幸せを感じる瞬間は家族が笑っている時だという。私がさらに印象的だったのは彼の言う「家族」とは血縁関係を超えた、住んでいる地域全体の人々をさしているということだ。

このようにフィリピンで出会った人々の中には他人のことを自分のこととして考えられる隣人愛が当たり前に存在している。これは私達日本人に欠けている部分であり、彼らの心の豊かさのベースとなっている。だからこそ彼らを「可哀想」という一方的な言葉で表すことはできないはずだ。彼らには私達と同じように無限の可能性が広がっていているにもかかわらず、金銭的貧困という状況によってそれが制限されてしまっているだけなのである。

私は支援を通して彼らに将来の夢を叶えるチャレンジが出来て、豊かな心を恥ずかしがらずに持ち続けることが出来る環境を整えたい。またフィリピンを訪れた私達は彼らのことを忘れてはならないし、彼らのことを伝え続けなければいけない。そして大切なことはフィリピンに訪れた私達だけが家族になったのではないということだ。私達はこれからの活動を通して他の高等部生にも「フィリピンの子供達を支援している高等部生全員が彼らの家族だ」という意識をもってもらいたい。





2019 年度　岩手県宮古訪問プログラム　参加者募集！

東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県宮古市を訪問し、震災遺構で被災の話を聞き、宮古北高校や地元で活動するボランテア団体「みやっこベース」などと交流します。

日程：　２０１９年８月１日（木）～８月４日（日）　３泊４日

訪問地：　岩手県宮古市

内容：　宮古市田老地区防災研修、宮古北高校や地元の方々との交流、ALL 青山での支援イベントなど

一次募集締切：5 月 20 日（月）

※定員に空きが出た場合に限り、二次募集を行います。

募集人数：　15 名程度

申し込み・問い合わせ：　武藤（理科　物理・地学）、吉成（国語）まで



奇岩・三王岩



震災遺構・田老観光ホテル

「第４回 山の手空襲を語り継ぐ集い」のご案内

表参道周辺の空襲被災について体験者の方と交流を行う「山の手空襲を語り継ぐ集い」が、今年も開かれます。

私たちが通う高等部周辺も、昭和２０年４月、５月の空襲で大きな被害を受けました。

戦争の現実を「見て」「聞いて」「考える」またとない機会です。ぜひご参加下さい。

日時：２０１９年６月１６日（日）　１３：３０～（２～３時間程度を予定しています）

場所：渋谷区地域交流センター神宮前 4 階（神宮前 6-10-14　明治神宮前駅徒歩２分、原宿駅徒歩６分）